

今年の小麦生産も不順な気候に悩まされました。

今年の小麦は雪解けの遅れ、春先の低温・多雨による生育の停滞、湿害から始まり、その後は干ばつと厳しい気候条件にさらされ、全体的に収穫量が減るという事態になりました。ただし、収穫期に雨が少なかったため小麦の品質は良く、冬には美味しい小麦製品をお届け出来る予定です。難しい条件の中、美味しい小麦を作ってくださっている生産者の方々に改めて感謝の気持ちを持ちたいですね。



江別市 ハルユタカ

8月13日の自給ネット小麦畑で「春きらりの刈取り」に参加された皆さん、麦畑には雑草も多かったので大変でしたね。お疲れさまでした。

さて、今年の江別産小麦の状況をお知らせします。春の多雨、6月～7月の干ばつで収穫時期の天候を心配していたのですが、秋まき小麦、春まき小麦共に3年ぶりに無事収穫できました。トラスト小麦のハルユタカは収量・品質ともに平年並みとなり「ほっ」としています。トラスト小麦以外では秋まきの「きたほなみ」は、干ばつの影響を受け、やや収量不足でしたが、春まきの「春よ恋」はまずまずでした。生産者のもとより、JA、江別製粉も喜んでいます。

江別市篠津 生産者 萩原 英樹



岩見沢市 キタノカオリ

結果としては今年もダメでした。これで3年連続の被害ということになります。昨年と同等かそれ以下の収量です。収穫時期の天候が良かったため内部品質的には最高級のものになっていますが、実が十分に太らず製品歩留まりが非常に低いという昨年とよく似た状況になっています。品種の切替とも重なり生産現場では生産者、関係者とも「なぜ穫れないんだ?!」という怒りを含んだ疑問が渦巻いており、先日開催したきたほなみ栽培講習会には、100人程度の会議室に200人以上の生産者が押しかけました。麦収益が当地区生産者の基幹収益の一つとして比重が高まっていること、戸別所得補償の数量払いの比重が高いことが、これまで以上の関心の高さとなって現れています。

この低収量は、前回のニュースで心配だと報告したとおり春先の湿害により根が十分にできなかったことが大きな原因の一つであると思っています。ですから、トラスト小麦のきたほなみ、キタノカオリだけではなく、はるきらりも低収量でした。しかし、品質は良いと思います。十分に今年の麦を堪能してください。

JAいわみざわ 米穀課 西飯 弘行

小麦を作ってパンとワインで乾杯を

～第2弾 小麦の刈り取りに行こう!!～実施しました



小麦トラストスタッフ 外所裕子

8月13日(土)消費者 18 人、スタッフ 3 人が札幌の NHK 前に集合し、バスで一路5月に種まきをした江別市篠津のトラスト生産者、萩原さんの畑へ。バスの中で自己紹介をしながらお互いについて少し理解を深めたりしている間に到着。萩原さん夫妻、JA 道央の飯田さん、江別製粉の佐久間さんが迎えてくれました。

到着後、萩原さんから今年の小麦の状況についての説明や、小麦の刈り方、鎌を扱う上での注意を教えた後は銘々好きな場所で写真撮影などしながら思い思いに小麦刈りを開始。小麦がよく乾燥しているせ



いか、鎌の手入れがいいおかげか、ザクザクッと小気味よく刈りとりが進みました。刈っている途中で萩原さんにあれこれ質問。雨が少なかったことについて聞くと、「7月の中旬以降今日まで雨が降らず、全然足りない。あと3回大雨が降ってちょうどいいくらいだ」とのこと。確かにあちこち地割れがしているほどの乾燥具合。去年は多雨に悩まされ、今年は少雨に悩まされ、本当に自然相手というのは思い通りにいかない難しいものなのだあと、悔しい思いがしました。ただ、実が太らない代わりに倒伏している苗は少なく、コンバインでの作業はしやすいし、出来た小麦の品質はいいのだとか。

小麦を刈っていく最中に気になったのはノゲのチクチクした痛み。軍手の間からだんだん入り込んできて後半は一度軍手からノゲを除去しないと刈取りを続けるのは辛いと感じたほど。服装の指定に長袖・長ズボンと書いてありましたが、それでなくては畑で作業するのは難しいと畑での作業を自分でやることで実感できました。

また、今回この畑には除草剤を使わなかったということで、トラスト会員の嶋田さんが途中草取りをしてくれた一部を除いて稗が勢力を伸ばし、肝心の小麦が負けそうなくらいでした。除草剤を使わないで栽培するということは、理想的だけれど簡単なことではないのだ、と現実を思い知りました。

半分くらい参加者の手で刈ったところでコンバイン登場。希望した子供たちを乗せ、参加者全員で時間をかけて一生懸命刈ったのと同じくらいの面積を一瞬にしてバリバリと刈っていくのを見て、唖然とするやら気持ちいいやら。コンバインに乗せてもらった子供たちはなかなかできない体験をさせてもらい、すごく楽しそうでした。

刈取り作業の後は萩原さんの畑の隣にある公民館でお昼ごはん。お盆の道路渋滞でシロクマ・北海食品さん特製のランチボックスが少し遅れて到着するハブニングはありましたが、町村農場の牛乳、スイカ、萩原さん家のトウモロコシとポリウム満点のお昼ご飯でした。食後一息ついた後は江別製粉の佐久間さんからクイズを交えながら



すっかり稗の勢いに押されている小麦



刈取り中



刈取り後





ポリウム満点ランチボックス



楽しく小麦についてのお話をさせていただきました。正解者には景品があったのでみんな真剣そのもの。お話の中には「最近生産者も消費者も意識が変わり、北海道で作っているのなら、なぜ北海道の小麦を食べないのか？」という人が増え、少しずつ地産地消の取り組みが増えてきている」という、トラスト運動に参加している私たちにとっても嬉しい内容もありました。

この日の小麦の収穫量は 150kg くらい。その中から稈を抜くなど選別して最終的に 100kgくらいになるのでは、ということでした。この小麦が、いよいよ **12月11日(土)に札幌で開かれる『収穫祭』(～小麦を作ってパンとワインで乾杯を～の最後の企画)**でパンやパスタになって皆さんに味わっていただきます!!楽しみにしててくださいね。

こっそり行った草取りの成果にガッツポーズ！

厚別区 嶋田 直美

8月13日晴れ、家族全員初めての麦刈りです。麦畑のイメージは「風の谷のナウシカ」のラストに出てくる「金色(こんじき)の野に…」という感じでしたが、萩原農場に着くとトラストの畑は金色と緑色(ひえ)のまだら模様。さらに手時きのところは緑増量。でも畑をよく見ると、一度こっそり来て、草取りしたところだけ、緑がちょっぴり少なくて、小さくガッツポーズでした。



ノゲの痛みに耐えながら汗水たらして刈取ったひと山が「だいたい小麦粉200gくらい」とのコメントに、これでピザ3枚…と遠い目になったその時、コンバインがバリバリ音を立てて登場です。乗せてもらった子どもたちは得意満面。あっという間に粒々の状態になり、文明の力を知りました。交流会では、子どもたちが萩原さんのとうきびを何本も平らげ(うちだけ?)、美味しくポリウム満点のシロクマパンのランチボックスでお腹いっぱい。そして、江別製粉の佐久間さんのクイズに大興奮でした！最後になりますが萩原さんはじめとする関係者の皆様、お忙しいところ貴重な体験をありがとうございました!12月の交流会も

楽しみにしていますので、よろしくお願いします。



この山で小麦粉約200g!



穂ひと房からとれた小麦粒



刈った小麦があつという間に粒々に!!



トラストの活動を支えてくださっているJAの皆さんの紹介です

小麦トラスト終了年度。今まで活動を支えてくださったJAのみなさんに、トラスト活動に参加してきた感想をお聞きました。



JA道央 生産販売課 副考査役 飯田 泰史さん

JA道央は、自給ネットワークの小麦トラストがスタートした当初から10年のお付き合いになります。私は3年前からトラストに関わり、消費者が顔の見える小麦を買い支えていることに感謝を受け、小麦の品質を上げるため、より一層調整の向上に努めるように意識が変わりました。これからは収量がとれ、所得が保証でき、生産者の生活が成り立つ小麦の生産と、消費者のニーズをきちんと受け止めた小麦の生産との両立を目指していかなければならないと思っています。JAは安定した農産物の生産と出荷が仕事です。これからも生産者と消費者の間で、より良い農産物を流通していきたいと思っています。



JAいわみざわ

常務取締役 日村 殉さん（写真中央）

農協がこれまで生産者と消費者の交流に参加することはあまりありませんでした。しかし小麦トラストでは自分たちも一緒に参加し、交流会では消費者を身近に感じる事が出来て本当に良かったと思います。消費者が農業に関心を持ち、見聞きする姿に感動しました。農協がこういった活動に参加することは正直大変な面もありますが、農協にとっても大事な事なのでこれからも取り組んでいきたいと思っています。

米穀部部长 伊東 誠一さん（写真左）

消費者の人たちは良く勉強していて、農業のことをもっと知りたいと思ってくれているのは大変うれしいです。でもJAの説明の仕方はちょっと仰々し

ぎますね(笑)。今まではJAと消費者はお互いに遠い存在でしたが、これからはもっと距離を縮めて近づかなければと思います。

米穀部考査役 西飯 弘行さん（写真右）

小麦トラストの取り組みは本当に新鮮でした。交流をしていく中で、消費者が農業について多くのことを知っているのに驚かされました。JAは今まで消費者や生産者が発信したものをただ受けるだけでしたが、これからはJAからも情報を発信したり働きかけをしていけたらいいと思っています。消費者が求める農産物を、生産者と共により良いものを作り、流通にマッチングさせるのが私たちの仕事です。

～小麦が育つまで～ トラスト小麦である、キタノカオリ、きたほなみ、ハルユタカの生育過程を簡単な図にしました。

秋まき キタノカオリ・きたほなみ

- 9月中旬 種まきと一緒に肥料を撒く
～ 除草のための薬を散布
- 9月下旬 発芽
- 11月 根雪になる頃、来年の雪解けの時に「雪腐病」という小麦が枯れてしまう病気を予防する薬を散布
- 4月～5月 生育を促すために肥料を与える
- 6月上旬 穂が出始める
～7月上旬 害虫や病気の予防のために薬を散布
- 7月下旬 収穫

この時期に雨にあたると、収穫前の小麦の穂から芽が出たり(穂発芽)、カビが発生し、小麦の収量や品質に大きな影響を与えます

初冬まき ハルユタカ

- 11月上旬 種まきをするために、畑をおこす
- 11月中旬 畑が乾き次第、種まき
- 2月中旬 雪の下で発芽する
- 4月中旬 雪解け後、肥料を与える
- 4月下旬 除草のための薬を散布
- 6月中旬 出穂前に生育促進剤(リゾカ)を追肥
- 6月下旬 穂が出始める
- 7月上旬～中旬 害虫多発時のみ 殺虫剤を散布
- 7月下旬～8月上旬 収穫

8月